

1 食と農の安全確保のための多国間研究交流ネットワーク事業

1. 趣旨

新興・再興感染症や高病原性鳥インフルエンザに代表されるように、食と農の安全に対する脅威が国境を越えて発生している。

このような中で、我が国の食と農の安全性確保のためには研究開発における国際的な連携・協力の重要性が高まってきており、我が国が中心となってこの連携・協力を進める必要がある。

このため、我が国のイニシアティブによる多国間のワークショップ、国際共同研究等により、研究交流ネットワークを構築し、食と農の安全性確保及び国際貢献に資することとする。

2. 内容

(1) 新たな多国間の研究交流ネットワークの構築

○多国間のワークショップの開催等を通じた研究交流ネットワークの構築

(2) ネットワーク活用による国際共同研究

①研究情報の分析・検証のために必要な国際共同研究

○地域に適した簡易で迅速な食品汚染物質検査技術の食品輸出国での検証 等

②食と農の安全を脅かす国際的に重要な病害等の予防、まん延防止、早期危険回避のために必要な国際共同研究

○国境を越えて我が国に侵入する病原体や害虫の予防・防除法に関する研究 等

3. 実施主体 独立行政法人

4. 実施期間 平成17年度～平成21年度

5. 平成18年度概算決定額 13 (15) 百万円

(担当課：農林水産技術会議事務局国際研究課)

食と農の安全確保のための多国間研究交流ネットワーク事業

【食と農に対する脅威の増大】

- 近年、国境を越えて疾病や病虫害が連続発生
→新興・再興感染症や高病原性鳥インフルエンザの発生等
- 我が国未発生の問題の温暖化等による侵入可能性の増大
→カンキツグリーンング病の沖縄への侵入等

【安全・安心に関する施策の展開】

- 日本ASEAN行動計画(H15.12)
→情報共有等食品安全につき密接な協力関係の構築
- 経済財政運営と構造改革に関する基本方針2004(H16.6)
→鳥インフルエンザ対策等、食の安全・安心の確保及び新たな感染症といった国民の生命、健康を脅かす事態への対応

【目 的】

脅威への「対処」から「予防(早期発見・早期対応)」への展開
二国間から新たな多国間の研究交流ネットワークの早急な構築

【対応の方向】

(1) 新たな多国間の研究交流ネットワークの構築

- 多国間のワークショップの開催等を通じた研究交流ネットワークの構築

(2) ネットワーク活用によるアジアを中心とした国際共同研究

- ① 研究情報の分析・検証のために必要な国際共同研究
 - 地域に適した簡易で迅速な食品汚染物質検査技術の検証 等
- ② 国際的に重要な食と農の安全を脅かす問題の予防、まん延防止、早期危険回避のために必要な国際共同研究
 - 国境を越えて我が国に侵入する病原体や害虫の予防・防除法に関する研究 等

我が国における農林水産業の安定化と食料安定供給の確保
我が国のアジアにおけるリーダーシップの確保と国際貢献